

学校評価アンケートの結果

- 1 目的 学校の取組を児童、保護者、職員で評価し、教育活動の改善を図る。
- 2 日程

令和5年12月11日(月)	保護者アンケート配付(個別懇談終了日後)
12月4～8日	児童はこの間にタブレットで入力(Forms)
12月18日(月)	保護者アンケート回収終了
12月21日(木)	保護者アンケート結果入力完了(学習支援員)
冬休み	アンケート結果集計分析(教頭)
令和6年1月～2月	アンケート結果集計分析検討(総務)
3月7日(木)	第3回学校運営協議会
3月中旬以降	検討会の開催(学年会、各指導部会等)
3月下旬日	アンケート結果公表(HP)
- 3 対象 全校児童(タブレット)、全保護者(紙媒体)、全教職員(PC)
- 4 学校評価アンケートの分析と考察
 - (1)「学校生活」の項目では、児童の95%が学校を楽しんでいると感じている。また、保護者もその様子を実感している。「学校生活を楽しくしよう」とする教員の努力が結果となって表れている。ただ、「学校は楽しくない」と感じている児童が、5%(学級に1～2人)いることも忘れずに努力を続けていきたい。
 - (2)「学習理解」の項目では、「授業が分かりやすい」と答えた児童が90%となり、昨年度より2ポイント上昇した。児童が授業について「分かった」「できた」と実感できている。残りの10%の児童が教室で笑顔が増えるように授業力を向上していきたい。
 - (3)「肯定感」の項目では、「自分にはよいところがある」と答えた児童が82%となり、昨年度より8ポイント上昇した。児童は自分のよさを自覚しているが、保護者も教員も、子どもたちにもっと自信をもってもらいたいと願っている。今後も児童の「自己肯定感」を高める指導を保護者と同一歩調で進めていきたい。
 - (4)「有用感」の項目では、「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と答えた児童は84%となり、昨年に比べて5ポイント上昇し、保護者も92%と答えている。子どもたちの心に響く「認め方」「褒め方」を今後も実践していきたい。
 - (5)「感謝」の項目では、「周りの人に感謝の気持ちを伝えることができている」と答えた児童は92%となり、週1回のソーシャルスキルトレーニング(ひがりんタイム)の成果が出ていると感じている。家庭や地域でも「ありがとう」と伝えられるように指導していきたい。
 - (6)「規範意識」の項目では、「時間や決まりを守って生活できている」と答えた児童は87%となり、学校のノーチャイム制によって、時間を意識して生活を送っている。
 - (7)「挨拶」の項目では、児童の89%、保護者の84%が「あいさつができている」と回答している。コロナ禍が過ぎ、少しずつ、学校、家庭、地域で挨拶ができるようになってきている。児童会活動の「あいさつ運動」も継続していきたい。

- (8)「交通安全」の項目では、児童、保護者、教員の3者とも、交通安全に対して高い意識をもつことができている。ただ、児童の登下校での危ない場面が報告されている。スローガンである「登下校は命がけ」を意識させながら、命の大切さと合わせて指導を続けていきたい。
- (9)「相談」の項目では、20%（約5人に1人）の児童が、困ったことを教師に相談できずにいる。教員は手を差し伸べていると考えているが、届いていないケースもある。子どもたち自身の問題解決能力を高めつつ、年3回の教育相談を生かした指導に心がけていきたい。
- (10)「いじめ防止」の項目では、教員はいじめやトラブルを解決するように努めており、92%の児童も教員の取組を受けとめているものの、残りの8%の児童のためにも学校と家庭が同一歩調で指導に当たることができるように、粘り強く取り組んでいきたい。
- (11)「体力健康」の項目では、児童、保護者、教員の3者とも運動の大切さを理解している。今後も体力向上プロジェクトの一環として、チームジャンプや体育委員会による外遊びの企画を継続していきたい。健康については、栄養教諭による食まるファイブの授業や養護教諭が学期始めに実施している生活チェック「すこやかカード」を今後も継続していきたい。
- (12)「体育・長放課」の項目では、低学年は外遊びに行く児童が多くいる。高学年は係や委員会の活動が長放課にある児童もいるので、運動場に遊びに行けない場合もある。また、読書が好きで図書室で本を読む児童も多い。体育の授業には前向きに活動する児童が多い。